

# カラーラーの知識が活かせるお仕事

最新  
事情

「カラー」の知識ってどんな仕事で使えるの?と思っている人も多いはず。でも実は、あらゆる業界で活用できる、とても可能性のあるスキルなのです。先輩5人の活躍ぶりから最新事情を探つてみましょう。

取材・文/伊藤睦美

撮影/刑部友康

D/山岸彩(PLANETIS)



## PROFILE

専利備品を扱う会社でHP作成なども担当したことで、色に興味をもつ。DICカラーデザインスクールのデザイナー、インテリア各コーディネーターとして色を本格的に学び、卒業後、2004年2月に現在の会社に転職。色彩能力検定1級、カラーコーディネーター検定2級を所持

CASE  
01

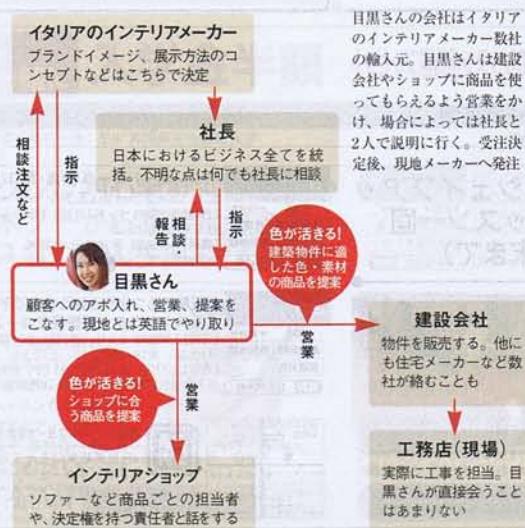
**環境や利用者の心理面に配慮した空間をコーディネイト**

目黒裕子さん (28歳)  
インテリアの提案

ドアや家具などイタリア製のインテリア資材を、日本の建設業者やショッピングに紹介するのが目黒さんの仕事。「自ら営業に出かけ、先方の手がけているマンションやショッピングのイメージに合う商品と、そのコーディネートを提案しています」

インテリア業界の経験はまだ浅い日黒さんが、プレゼンテーションまでこなすというのはなかなかのもの。「インテリアのバーツは素材も色々なりの種類があり、感性だけでお薦めしてもお客様に納得していただけないので、理由をきちんと説明します。たとえば、同じ色でも使う面積によって効果が違うんですね。3畳四方ではグレーに見えても3畳四方になれば白っぽく見えてしまう。光の当たる位置や量も関係しますし、オフィスなら仕事をしやすい環境をつくる色を使うなど、心理的な影響も考慮していることを伝えます」

## 目黒さんの仕事の流れ



3月に東京ビッグサイトで開催された展示会では、自社ブースのカラーコーディネートを目黒さんが担当。床の薄いグレーがチープな印象を与えがちなので、濃い色を部分的に重ねて高級感を出した



カタログだけでなく、実際に素材や色の見本を先方に見てもらいうがらプレゼンテーションをする



棚など部分ごとの設計図を用意し、必要なバーツと素材を詳しく書き込む。これで見積りを出す